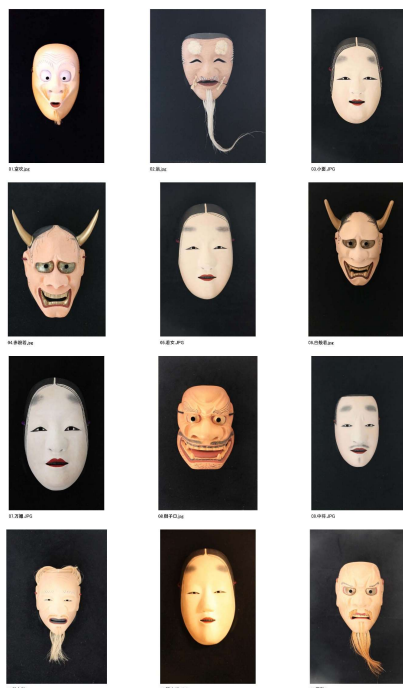


面打ち(能面制作)

(抜粹版)



川名 和夫

還暦を迎えた後の新年度に近くの取手カルチャーセンターで面打ち教室があるのを知って参加した。仏像彫刻か面打ちか迷ったが、宗教心もないのに仏像でもないし、より格調が高いように感じた能面の制作を選んだ。

新型コロナの関係で生徒が一人になってしまい教室がなくなるまでの1年5ヶ月の間に12面制作することができた。

作成した面(おもて)は、空吹(うそふき)、翁、小面、赤般若、若女、白般若、万媚、獅子口、中将、朝倉尉、孫次郎、悪尉の順に12面である。

一般の人には能面は「無表情」と表現されるが、実際には見る角度により多彩な表情に見えるのが特徴。

面打ちは彫刻のみならず、日本画(彩色)、古色、板金、漆塗り、刃物の研ぎなどの技法を習得できるのも特徴。

作成した面の一部を紹介する。

3、小面



能面といえばこの小面が思い浮かぶ。小面の「小」は小さいという意味よりも、可憐とか可愛いとか初々しいという意味合いが強く、女面のなかでは最も若い女性を表す。15～16歳という説が主流だが、12～15歳の説もあるとか。教室では3作目に指定された。

7、万媚



能面は女面の種類が多くまた一番難しい。

7作目は万媚に挑戦。

万媚は、妖艶な若い女性の面。口端が上がって笑みを含み、瞳が大きく小面より艶やか。

上手くできたかどうか？